

【優秀賞】

「水守の郷」の一員として

七ヶ宿町立七ヶ宿中学校

二年 日 野 玲 隼

春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の銀世界。

豊かな水が、それぞれの季節の美しさを引き立てる七ヶ宿ダムの風景が僕は好きです。

七ヶ宿町は、『宮城県民の水がめ』と言われる『七ヶ宿ダム』のある町です。

この町で生まれ育った僕にとって、水はいつも身近にあり、好きなだけ使うことのできるものでした。そして、それは当たり前のことだとずっと思っていました。

しかし、この夏、僕は、（水は無限ではない）ということをお願い知らされ、初めて水について深く考えることになったのです。

猛暑となった今年の夏。水を使うことは多いのにまとまった雨が降らず、全国的な水不足となりました。ニュースでも連日、ひび割れた田んぼや水位の下がったダムの映像等が流され、節水が呼びかけられました。

（七ヶ宿は大丈夫。）初めは、何の根拠もなく、僕はそう思っていました。でも、いつも水を汲んでいた家の近くの湧き水が枯れそうになり、水位が下がって茶色の土がむき出しになったダム湖を見たとき、僕は初めて、（水がなくなるのではないか。）という恐怖を感じたのです。

これを機に、僕はそれまであまり考えてみることもなかった七ヶ宿の『水』について知ろうと思ひ、夏休み中色々調べてみました。

七ヶ宿ダムは、宮城県の仙台市を含む十七の市や町に、毎日最大一九三万人分の水を供給しています。一番遠いところでは松島町まで水を届けているのです。七ヶ宿ダムの貯水率は普段なら約八〇％～九〇％なのですが、この暑さと雨不足で今は貯水率が六〇％台まで減少しました。僕も

小学校の頃にダム見学をしましたが、あんなにも大きく、深いダムの水がそんなに減ることがあるなんて、想像もできないことで、危機感がありました。

水源は、白石川の源地地としても知られる『鏡清水』で、江戸時代、街道を通ったお姫さまが鏡にして髪を整えたという逸話があるほどきれいな水です。この水を使って育てられた『源流米』や蕎麦は七ヶ宿の名物で、毎年たくさんの方が楽しみにしているのです。

さらに調べていく中で、僕は、きれいで豊かな水を守るためには『森を守る』ことがとても大切だということ、そしてこの七ヶ宿の森を守るために、たくさんの人たちが長年にわたって植樹や間伐などの保全活動をしてくれていることを知りました。僕は七ヶ宿に住みながら今まで森を守る活動に参加したことはなく、意識が低かったと反省しました。

そして、六月に行った松島校外学習で、松島高校観光科の皆さんと、船からカキ殻を放出する体験をしたことを思い出しました。

カキ殻は水中の有機物を分解して水質を改善するなどの効果があるのだそうです。僕は（空も山も海も水によってつながっている）そしてその水をきれいにし、守っていくのは人間なのだということを強く感じたのです。『水と森とつながるまち』という七ヶ宿のパフレットの言葉がやっと理解できました。

僕は今、総合学習で『地域素材の活用』をテーマに、森の間伐材で作った炭を活用して脱臭剤などが作れないか考えています。炭もまた、田んぼなどに入れて、きれいな水を作るのに使われているのです。なんと松島のカキ殻も使われていることがわかり、僕は、よりよい環境と水のつながりを実感しました。

僕はこの夏、水についてたくさん学び、考えました。そして、水に対する考えが大きく変わりました。すぐに何か特別なことはできないかもしれませんが、でも、毎日使っている水が多くの人々の手によって大切に守られてきた特別な水だと知った今、その水を大事に使うだけでなく、大切に守っていく活動にも積極的に参加していこうと思っています。

美しい『水守の郷』の一員として。